

活躍する女子高 OG

やりたい仕事に突き進め！

渡邊 真樹子さん(41 回生)



経歴

慶應義塾女子高校卒業後、慶應義塾大学法学部政治学科にて国際政治・国際安全保障を専攻。

1997 年に大学卒業後、国際協力機構（JICA）に就職。中南米、東南アジア、大洋州地域を担当。この間、平和構築支援に興味を持ち、平和構築タスクフォースに参加。

2001-02 年、JICA から国連に出向、東ティモールに赴任。東ティモール国際暫定行政機構（UNTAET）にて、紛争直後の東ティモールの独立支援に従事。

2002-04 年、ハーバード大学ケネディスクール行政大学院に留学。

2004-06 年、JICA のアフガニスタン事務所に駐在。JICA を退職し、世界銀行へ転職。

2006-07 年、世界銀行のインドネシア事務所にて、社会開発、紛争チームに勤務。30 年以上続いた独立紛争の和平協定が結ばれた直後のアチェに駐在し、紛争被害者支援、コミュニティ開発支援に従事。

2007-11 年、アジア開発銀行のフィリピン、マニラ本部に駐在。中国、南アジア地域のコミュニティ開発やローカルガバナンス支援に従事。

2011 年より再び世界銀行に勤務。インド事務所、フィリピン事務所、ワシントン DC 本部勤務を経て、2021 年 7 月よりケニア事務所に赴任予定。現在は、ソマリアと南スーダンの国内避難民や紛争被害の大規模都市や地域に対するローカルガバナンス、公共サービスの充実等を支援。

KeioGirlsProject とは？

女子高のよさを外部の方々に知ってもらいつつ、女子高出身者同士のがりもより広く強く築いていきたいという思いのもとで始まったプロジェクトです。これまで学校紹介動画や受験生向けのホームページを生徒自ら取材、撮影、編集集を行い、作成しました。



▲渡邊真樹子さん

▼ネパールの農村にて、
貧しい女性のニーズ調査

▲アフガニスタンにて、
各地から集まったコミュニティの人々と

今回は、世界銀行職員として世界各地で活躍されている渡邊真樹子さんにお話を伺いました。女子高時代（注：女子高とは慶應女子高のことを指します）や、現在の仕事についてお聞きするにつれて、女子高時代の経験をどう将来に活かすかのヒントが浮かび上がってきました。

女子高時代について

Q. 女子高時代の思い出や印象に残っていることはありますか？

A. 十月祭(注：女子高の文化祭)の後夜祭の実行委員を務めた時に、フィナーレで何百個もの風船を体育館の屋根から吊るしてパーっと落としたんですよ。それを実現させるため、風船の空気を入れるのに自転車屋さんを回ったり、体育館の屋根にどうやって何百個もの風船を吊るすのか考えたり、いろいろ創意工夫しました。成功した時にはすごく嬉しかったです。

また、経験以外に印象に残っていることは、女子高の先生がいつもおっしゃっていた「どの道を選んでもいいから、自分の選んだ道の一流になれ」という言葉です。「専業主婦でも、ミュージシャンでも、医者でも、何になってもいいから、とにかく自分の選んだ道の一流になれ」と 3 年間言われて育ってきて、今でも私の座右の銘になっています。



▲当時の後夜祭のフィナーレ

Q. 女子高時代、糧になったことはありますか？

A. やっぱり友達ですね。女子高生って変わっている人、個性的な人が多くて、「自分のやりたいことに突き進め」というような雰囲気だったので、多様な価値観と多様な生き方をする逞しい友達に恵まれたことが一番の糧です。また、就活のときなどに「型にはまらなきゃいけない」といったプレッシャーがかかると思うのですが、女子高は「人と違っていいんだ」という考え方を叩き込んでくれたので、それもすごく糧になったと考えています。

Q. 学生時代にやっておいた方が良くと思うことは何ですか？

A. いろいろな経験を積むことが大切だと思います。社会人になると違う分野にチャレンジすることは難しくなるので、自由な学生時代に視野を広げることは将来の自分のためになります。また「これは頑張った」と思えることを 1 つ作ることも大切です。将来辛くなった時に「あの時これだけ頑張れたからこれだって頑張れるはず」という心のよりどころができるので、何か 1 つのことを頑張ることをオススメします。

Q. どのような人が国際機関で働くのに向いていますか？

A. 例えば、日本の会社ではみんなが同じ常識を共有しているけれど、世界銀行では世界 188 カ国から職員が集まっているので、自分の常識が必ずしも他の人の常識とは限りません。だから、細かいことを気にしない楽観的な性格の人が向いているかなと思います。

Q. 言語習得のコツは何ですか？

A. あまり文法に縛られず、間違えることを恥ずかしいと思わず、ただひたすら喋ることに尽きると思います。正直に言うと、英語が共通言語の世界銀行でも英語が上手くない人はたくさんいます。それでも正々堂々と自信を持って話していれば誰も気に留めないし、十分通じます。度胸と恥ずかしがらないことが一番大事だと思います。

現在のお仕事について

Q. 紛争中の地域に赴くことに抵抗はありましたか？

A. 開発援助と国際安全保障の接点となる、自分の求めていた「紛争後の復興開発支援」の仕事に出会い、怖いと思う気持ちよりも、むしろ「これこそが私のやりたい道！」という想いが強かったので、それほど強い抵抗はおぼえなかったです。

Q. 異文化に触れる中で大切にしていることはありますか？

A. 相手の文化、例えばイスラム教の国では女性は頭をスカーフで隠す、といったことを尊重するようにしています。ただ、各国を 20 年以上転々として思うのは、人の本質は通じるものがあるということです。どんなに言葉や文化が違ってても基本的な人間的な部分は変わらないので、あまり自分を偽らないでそのまますえを見せるようにしています。

Q. 交渉する力はどのように培いましたか？

A. 私がアメリカの大学院に留学したときに、「NO と言われてそのまま引き下がるな」と先生方にずいぶん叩き込まれたんですよね。NO と言われたからといっておとなしく引き下がるのではなく、代替案を探して持っていき、どういうふう工夫したら YES と言ってもらえるかを考えるようにしています。また、相手がどうして NO と言っているのかを考えます。例えば、ルールや建前があるからどうしても YES とは言えない、という場合には、建前を崩したり、例外を作ったりせず、YES と相手が言えるように工夫をして持っていくようにしています。

▼フィリピンの都市化についてまとめた
レポートのプレゼンテーション



Q. 現在の仕事の苦勞とやりがい、大切にされていることは何ですか？

A. 爆破によりボロボロになってしまった国に住む、本当に貧乏な人たちの手伝いができているとすることが、1 番のやりがいです。危険な国になればなるほどニーズは高くなるし、行く人も少ないので自分が一人としてできることが多いと思います。ただこの仕事の難しさとしては、本当に危ないのなかなかフィールドに行けないことや、事故で亡くなる人も多いということです。一緒に仕事をしていて、とても仲の良かったモガディシュの市長さんは、爆破テロで昨年の 7 月に亡くなってしまいました。私も出張中に 80 メートル先で爆弾が爆発して危なかったこともあるので、そういう危ない環境は難しいなと思います。

Q. 最後に、受験生の方へのメッセージをお願いいたします。

A. 女子高の良いところは、「どんな役職も女性がやるから、女性にできないことはない！」と実感できることです。また、知らず知らずのうちに「リーダーは男の人がやるべきものだ」という固定観念がなくなり、それが人生にプラスの影響を与えます。あとは、女子しかいないから皆本音で接するし、建前がないから、本物の深い友情が芽生える、というのも女子高の魅力です。女子高生は、大学に行っても社会に出ても、やっぱりパワーが違います！

慶應義塾女子高等学校は、器の大きい人間を育て、個性を大事にしてくれる学校です。学問だけではなくて人間の本質的な部分を育ててくれる素晴らしい学校だと思います。

(2021/2/22 取材)

この記事が、一人でも多くの受験生、女子高生にとって、夢に向かって世界に羽ばたくきっかけになり、女子高生活をさらに充実させる糧になってくれればと願っております。本校を目指して下さっている受験生の皆さんと、女子高の一員として、共に過ごすことができることを心待ちにしています。